

ErrorSearch

Version 1.1.0

ユーザーズ ガイド

February 13, 2023

【備考】

【改版履歴】

バージョン	日付	内容
1.0.0	2018-6-22	初版.
1.1.0	2023-02-13	10進数でのエラーコードの検索に対応.

目次

1. はじめに.....	4
2. 画面説明.....	5
2.1. メイン画面.....	5
3. 検索方法.....	6
3.1. エラーコードのみでの検索方法.....	6
3.2. フィルタ機能を利用した検索方法.....	7
3.3. ワイルドカードを使用した検索方法.....	8

1. はじめに

本書は、ORiN2 SDK で定義されているエラーコードの、エラー内容を検索するツール「ErrorSearch」の取扱説明書です。

ErrorSearch では ORiN2 で発生するエラー(図 1-1 に示すエラー)について検索することができます。

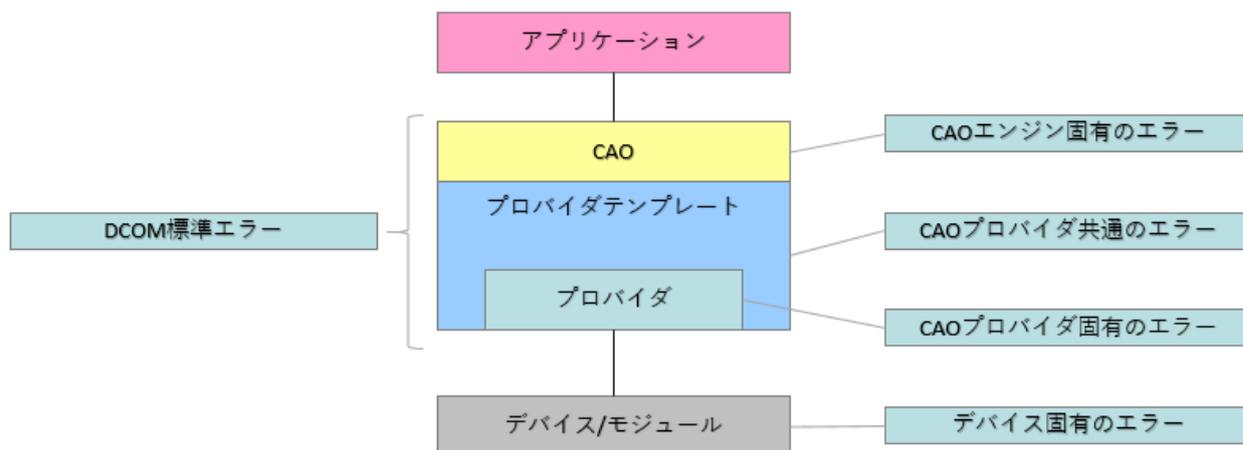


図 1-1 ORiN2 で発生するエラー

2. 画面説明

2.1. メイン画面

ErrorSearch の画面は以下の領域で構成されています。

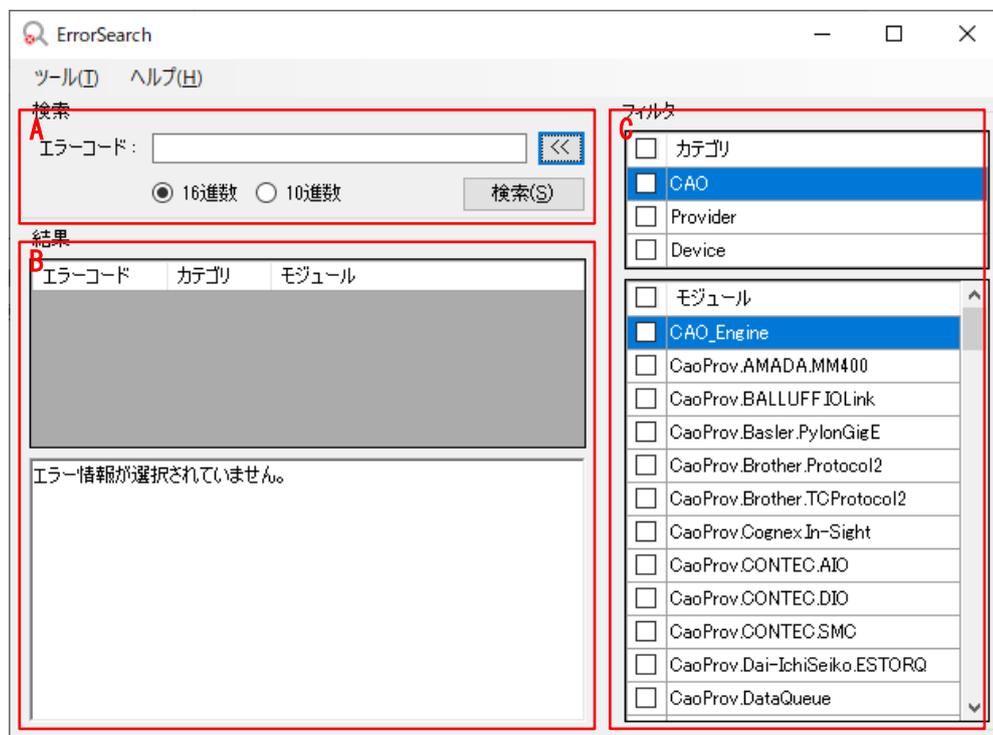


図 2-1 ErrorSearch のメイン画面

A: 検索領域

検索したいエラーコードの入力と、検索の実行を行います。

B: 結果領域

検索結果の一覧と、エラー内容を表示します。

C: フィルタ領域

エラーの検索対象を、カテゴリとモジュールで絞り込むことができます。

3. 検索方法

ErrorSearch の検索はエラーコードの入力のみで行うことができます。また、エラーコードの入力に加えて、フィルタとしてカテゴリやモジュールを指定することで検索対象を絞り込んだり、ワイルドカードを使用して部分一致の検索を行うことも可能です。フィルタのカテゴリでは図 3-1 に示す分類を絞り込み、モジュールでは CAO_Engine、Provider_Common、プロバイダ名等の項目で絞り込みます。

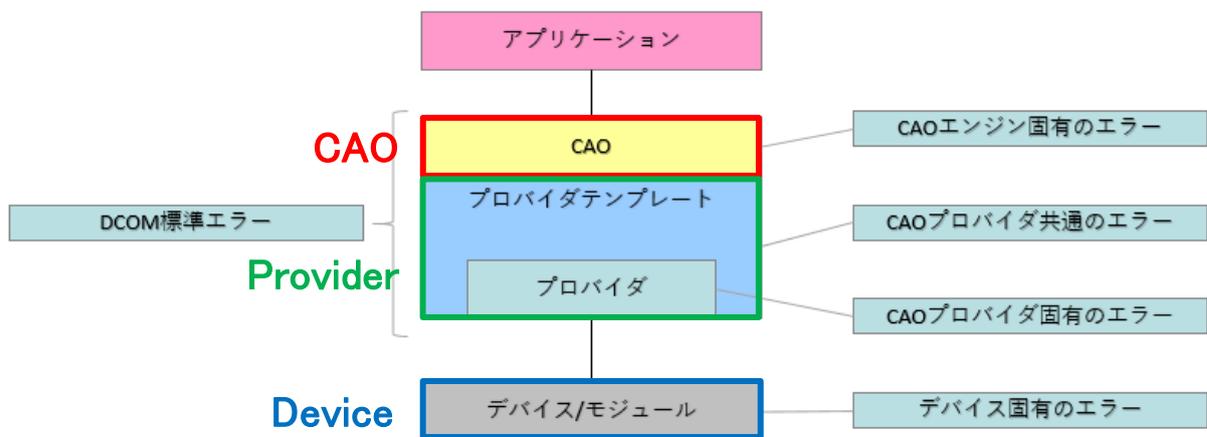


図 3-1 カテゴリの分類

3.1. エラーコードのみでの検索方法

エラーコードのみを入力して検索を行う、基本的な検索方法を以下に示します。

1. エラーコードを 16 進数で入力するか 10 進数で入力するかを選択します。
2. エラーコードを 8 桁の 16 進数または 10 進数で入力します。
16 進数で入力する場合は `0x○○○○○○○○` または `○○○○○○○○` の書式で入力してください。
3. 検索ボタンをクリックします。
4. 結果一覧から、情報を見たいエラーコードを選択します。

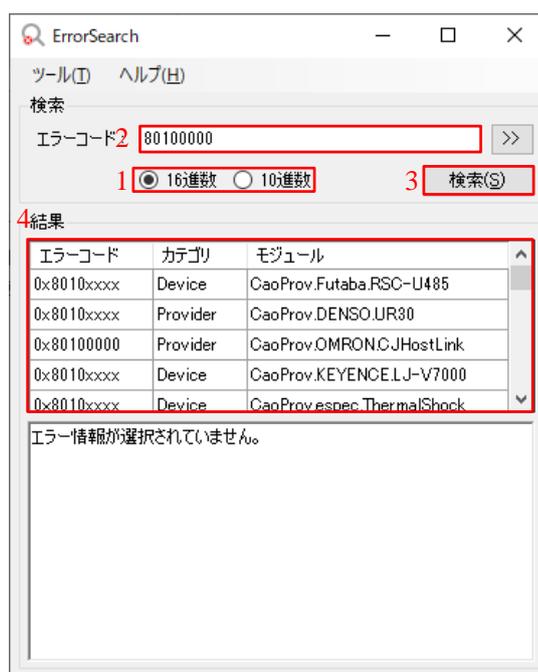


図 3-2 エラーコードのみでの検索手順

3.2. フィルタ機能を利用した検索方法

エラーコードに加えて、カテゴリやモジュールでフィルタを設定して検索する方法を以下に示します。

1. エラーコードを 16 進数で入力するか 10 進数で入力するかを選択します。
2. エラーコードを 8 桁の 16 進数または 10 進数で入力します。
16 進数で入力する場合は 0x○○○○○○○○ または ○○○○○○○○ の書式で入力してください。
3. >> ボタンをクリックし、フィルタ領域を表示します。
4. (任意) 検索対象とするカテゴリにチェックを入れます。
5. (任意) 検索対象とするモジュールにチェックを入れます。
カテゴリにチェックされている項目があれば、チェックされているカテゴリで選択可能なモジュールのみが表示されます。
6. 検索ボタンをクリックします。
7. 結果一覧から、情報を見たいエラーコードを選択します。

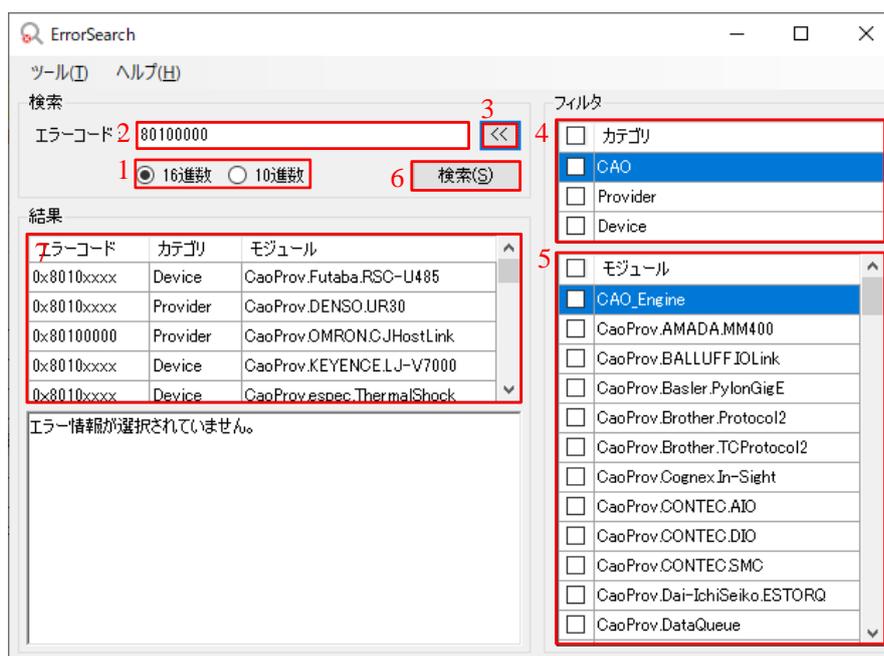


図 3-3 フィルタ機能を利用した検索手順

3.3. ワイルドカードを使用した検索方法

ワイルドカードを使用してエラーコードの部分一致検索を行う方法を以下に示します。ワイルドカードはフィルタ機能と合わせて使用可能です。

ワイルドカードはエラーコードを 16 進数で入力する場合のみ使用可能です。

1. エラーコードのうち、任意の文字列に置き換えたい部分に*を入力します。
8010*(前方一致), *0000(後方一致), *1000*(部分一致)のように入力してください。0x の入力は任意です。
2. 検索ボタンをクリックします。
3. 結果一覧から、情報を見たいエラーコードを選択します。